911.2
S

總持學園藏書之印
156176

新撰菟玖波集巻第十二
雑連歌一

かもし浪こえし池いつ内は

後三条入道前左大臣

春こそ月よもしき上人の飯似へ
はるかにふしさめぬ山

御製

まきれし思ひは宮やすけん
笑のこゑにこふしやらんゆゐ

前左大臣

ことはいと泪氷みしうつり　吉羽川
わさねの音へゆりか宗秋

権大僧都心敬

若水に雪くとくしまく月花
ましくみもり人のめぐる

宗砌法師

年をいふつけ春しも老なく

文明十八年三月廿八日内裏にて
百韻の連歌にさむらひし時

前大納言親長

山のもの栗のうまへ春日をみ
まれしもいすくまゝしけりのこゑ

能阿法師

かすみけり夜はの月の湖の春
さゝなみ消えて人はゆかなん

権大僧都心敬

さえかへり梅の花さへとけやらぬ
かほりしるかしの一もと

宗祇法師

明かすまで雪と見しまに人の消え
風ふけぬめく梅の花陰

宗砌法師

舟とめてかすむ山もとしらぬ山
らりのみもやかねて山桜

正徹法師

かし見え木のまに白川人の
花しら山のくもゐに

源蔵卿

石ばしる水のすゑともとめて
鶴の尾も猶くれもとの

行眼寺頃

かへる山まだ雪深しのたちかへり
きえ見えし花の門とはゆかし

宗元法師

山かげにすむ人はゆく人の古寺
あかつきくれて春の花

智蘊法師

かすしらぬやまてのかけに

ちらしてもしらぬ花はのこらす

関白右大臣

ありそての世とうらしと人もうき鳴て

さらりとみするむかしものはまうつゝかや

三品親王

こぬ人さうへう白のらしす

とらむいとせのへみえてもりとく

権大納言實隆

しけりやいくまき人のうしとも

ありつきしに雪のこき水

能阿法師

月まつく声のらしすし羽のてく

たよりのくるふすき雪よの庭

肖柏法師

ゆきさめくりたる竹河の岸すきて

うつりとしのをさき寄人

宗伊法師

もろさおもき[illegible]いとくるく

前関白家にて百韻会のさくへ

野しいかるをふさもかゝく

藤原長兼

谷しくかへりつれにの雪かけて

かけさほしるし梅らか梅の

権大僧都心敬

雪うすき山の梅ちりて
吹ゆくにはなく

多々良政弘朝臣

この春のよの月
ましり柳をせすく

非宗氏公

梅の小鳥の
花のえや水のね

宗祇法師

玉ぬるや川せ梅さえく
白雲に花

宗春法師

めやとや風のつきさへ
花の枕の

法橋専順

こまの月影
風の

権大僧都心敬

かしゆへのさの月
山のさ

多々良政弘朝臣

花さき夜
家の和漢連句中

たれしへきしやすき世中

前関白

さくら木と花より清くさきのこやや

花さへのちりぬる春もなのあと

入道前右大臣

あめのふるにやりへしいふにもとこそ

家まて百韵のまえまかる

此くもかゝりかはりつ

関白右大臣

らうまていふらも見えさりしさくら

四ゐりてあらしふるらり

御製

さすてあらしの花のかり衣

いくはの春のちとせきつへん

花さかり木のもとのやまにほ

たいまふしにかゝぬかぬもけれ

太政大臣

さくら木よりかはるさくら枝も咲く

しもかれのやまの中とかへるつ

覚阿法師

山さくらあらしもしられ雪なりし

きみもとやさくへ河の雨し旅かな

源友具

さかりのめくる白さの

さくらさく山の白雲木の下

法橋昌義

見しからはからの錦をたちかさね

ゆかれぬくるし春はあすかな

源持知

人はいさ花の香のみに木のもとに

とまりて桜さく夜は見えぬ

よみ人しらす

人はいさ山さくら花咲る日の

山の奥まてやすらひもせす

宗長法師

一わかれ見し花にかし花とみる

まつれし山といへしとうかなや

大江宗廣

たのしく花見し人の後は

しかまて思ひやる山もかな

よみ人しらす

しかれ人の心つかひのあつと

ちるへきものとしのかきりは

法眼宗水

花はさく山はしらしのわかしらす

けにまたさめしもしはかりけり

藤原長清

有人の風はいつれ山さくら

おもはぬ身のゆへ〳〵しなれにし

意木内守晨

風にちるをしはいとゝ世を
みすてしかくもちとせをかも

宗砌法師

花さく世のにほひやこのあたりのかん
さとのうら都の月もさやかにして

能阿法師

むかしいよりたちはなれし山里
ことのはしすみの山のかけの雲

増位三位殿

その見えし世の人のさもあらは宿あらて

木すゑも人のかの人よしや

源秀頼

しら思ひそめしのしも春のね
おもひきやまちし秋をもいとゝ

忍誓法師

うき人よりも花も萎るゝや
めくりしよりはかなき世

智蘊法師

いつはりもなしわか末の花の香
色染まる花のつゆにやまて

放宗利隠

つれなきはたのみしものゝ山をせめて

[illegible]山わかはうし人をりけり

在原武貞

[illegible]花や風[illegible]

[illegible]とちりかやまむ

素性法師

[illegible]の花[illegible]

[illegible]

しる人ぞしる

[illegible]花ちらすとは[illegible]

[illegible]

藤原元親

花[illegible]人[illegible]

又くれは[illegible]

在原棟梁

[illegible]

花の[illegible]とりとや[illegible]

素性法師

春[illegible]

[illegible]花[illegible]

智閑法師

[illegible]花の世よ

[illegible]や我[illegible]

在原業平朝臣

人[illegible]山[illegible]

かすみもそてにまかせあき風

三品親王

月は猶春の夜のにほひのほのかすく
しかもある山はさくらの咲つれて

式部卿高親王

くれはのかさえしのはく
我人をとしてもむしやうさこし

宗祇法師

鳥もまくつ白山らの春の雪
柳さくらのにしきとかは

平棟

きえつる雪のあさ河にしや

まてしのみわかりきしのもし

法眼玄順

暮深よりめりやすね人の夜かへ
夕ゐのかたとそ花れにしに

法印玄意

山のはふかくりかへれの夏はさく
はれつころすらと草かれと

宗長法師

夕ゐまさやすりの花のゆきり馬
し法ゐて袖ろしのく

法橋兼載

見るわかすすとのかよ秋けり

葉の庵にかゝるくもしらい

宗砌法師

いくつゆくやいつかの里

しなのちらりゆくまちまちに

宗長法師

いきもたいのかしこ閑なく

月と秋にしるすくの旅に

竹眼寺頃

をと山田にのへいつくゆりいらく

うつやまきものにけり

関白左大臣

う風にふくいはせうくし山

いりもさき雲のうき

慈照院道頼太政大臣

又月ちら月もつ顔に色をもて

玉ちる浪にうつてらく舟

沙弥益汝

しかのうけすし虫の声ふかう

雲に雨あのゝるふこうかた

しるし人のなと

すゝくも村さのさく涼みの

志のゐくもゐ風のとゝまる

前中納言言長

りえのし山にいはよ秋をもちて

しらつゆの袖の露のうへ玉
多々良政弘朝臣
世のうさとはつらしへは秋ふかく
かしの山とはいふうきかき
従三位教弘
とまりの秋のあらし風さき吹て
しらぬの河との秋よるさうや
法橋亮心
是合とかりくる月の光の又は
すみなくくの山かせの秋のせ
智蘊法師
めしうへてわつらき浮のうれし露

夕暮はにとをしいつ方を流し
源政宣
萩うりきうのおもしろと秋のをも
宿に花さくいふうつ秋露のおれ身
能阿法師
花よさそ秋ふかき秋の手
ちくののかし小萩のあそかなう
多々良時
月すのをりんのむしより見て
あさまにおりのこいふ秋の風
宗祇法師
下葉なる木末の月にうつりてて

けふこそあれ霞ぬ春をいはせ

権大僧都心敬

さくらちる柳や鷹とさき初けん
三人さしはさめし風のひら
たゝすみ月とこそ宮に見えく
すゝ白間しまき露の夕霞

荻原正存

しらぬのすゑとや月にさそはれん
丹波路やこの山ゆくぬかき嵐

能阿法師

月すゝしきもしかり雲の里
きしのてこの雪の中の梢

専順法師

氷室山のはにふりしと月しろく
内裏にて三代集作者ところは
しも哥よ咲くわかなりいへの
たゝしせ

桑原基恩

すゑのはるかに人の境月しく
昔人のうつゝの跡しつかに

法印行助

暁とのやきらの秋の月
流しのをときゝなるいはゆるす

宗宣法師

松風にちるの月とのみ見んしはしのこゝちはなかれ

多々良政弘朝臣

はるかなるのさとは小稲田の月みれは
たのむの雁かなのさ秋かせ

見人[illegible]

しら雲の上行月にてらされて
かりゆくさのやとにみるも[illegible]

宗砌法師

山のはさしは月の[illegible]つきぬ
又露しらつゆさ山にかゝる[illegible]

法印行助

末の露は涙こす月やはかなし
ともの月うさは老の身の秋

能阿法師

露しくの宿もあらは月と[illegible]
雲井のいはく鷹[illegible]立

法眼専順

ゆふさそ月は西の空すてて
荻ふく風におもしそ

宗長法師

霜露に月[illegible]やはらかし
山と[illegible]にかはらし

宗伊法師

すみなれし人もなき月をいつかはみて
つ松かのなるむしも方の山
他阿上人
くもりなき心にみえて月は
しらゐるにやむらものちるや
前関白 房
ゆきのまのと月はかしこき
夏はなかくもなく白かに
三品親王
又うれしのきみも月にかけて
しらつゆもいりも袖ぬる淵
後花園院御製

秋の夜のくもゐの月とみく
らすなとみて秋ぞしれ
後三条入道前太政大臣
行く月山のはしらむ
くもすの人をまつかな国
多々良政弘
人の世のかはらぬ月をみても
何なかりしを
寂蓮法師
かくれなき月にも人のよをもかな
袖ぬらしつゝなみもかし
三品親王

暁のあつ秋まいる浪のうかすらやく
かれしてあれはすゝ池見ゆ
良政法師

さしめいの月秋の人のかれ
松ありあかすの世のへてのこゝろ
宗砌法師

さき秋の世の夕暮れゝ之
夕暮はいふもかゝのまくとしゝ桃
藤原能秀

松しみるさ秋の世ちねく
人からうすかりつゝ月
源盛卿

あか川し人の見えきめ山ふかき秋のくれ
身よりはなとも見とやいしの
紀光信

行かへのつきもしたに秋の色
老まかりしと月ぞさへて
宗伊法師

風つきの山ふかき秋の庵
かりふすれしゆか霧ふれ
智蘊法師

世中と秋そ猶山人行くのみ
おほかたの人はせてしよそみえあらん
法眼専順

よもすからのみさえし夕くれ
みをもゆくかりは八月もそ
行助法師
いつはりとおもひなからや月
待さひしさに秋の空
権大僧都日与
さゆる世とみさへ山かくれゆき
うき草や川もなかくるゝ
智蘊法師
かくれぬる山ふかくきえし
やとりにたか人の行かた
源政郷朝臣

あれはてし木葉にかくる庵の庭
月さしいるゝやとりかはせむ
権大僧都心敬
君かための袖のうへとつる尺
しれともしらぬきぬもしほなれや
宗祇法師
ふしのねをしへてそふけりまた世中
雲かゝる鴻や夕のこゑなん
宗長法師
ねきてそえくもるとのまにかり
ふるしけるのも雲かくれなる
法眼専順

霞むまて末なき山は雪ふりく
浬犬はよわくさむさにたえて
しる人へうす

こほりゆるれし谷の下つ雪
あらし吹雲はやはしよ多きして
権大納言実陰

松の葉にさ雪はしと山
さゆる夜の月はかけのみよ静かにて
法眼源讃

雪ふりまよふ山をせのすゑ
山きりしとのきしくの風見へて
法橋昌歌

雪のあしたふみ来つるの山路
竹のはにさゆる夜はあけぬかとて
権大僧正秀順

猶ねえ夜ましくあけの雪のふく庵

新撰菟玖波集巻第十四
雑連歌二

千句の連歌の中に
はれらへのあし嶋

宗伊法師

まものしたもしらく山の雲晴て
しほかせに浪ぞふかくしまかふ

入道前右大臣

山をゆくくして雲ぞまよへる
まつにふる人の中そゆく

権大僧都心敬

あきらく松のへの風ぞふく
見ゆるかたに袖はぬれけり

宗般法師

あき風のさむき人やかへるらん
老ての人ゆきさふかやかなき

宗砌法師

いまはへのしかの山にも小松原
あさたつ雁よしはしやすらへ

源友興

雲はなれてにのこる山風
又見ゆるとのこしてくれ
見人うつす
あさ霧の山にのこれる人の雲

みちとせもかくすすしけふの月かな

摂政良政太政臣

雲ゐよりへよするもりのかけくもりなく

御ほうとまかせにかけて

法眼玄順

かさねいくよのかのおもひの秋

文明十三年九月十三夜之内裏にて

百韻のきさらしよりとし

山と成りたる

兼載宗祇

雲とまりをきかえんかなれや

同十四年十二月廿日夜会

世の人のこゝろかくしくもかくく

御製

月のうつ山きりのみやの秋

秋来る山とあれはかなしも

権大納言宣胤

しみつくりふることきりの秋

身かくれ人のふる山まつ雪

恵俊法師

都まくかりかつゝき嵐

しさいりよしもりの中

純行法師

岸かにかも茶からかく山

あしひきの梅の色にほふ雲
前左大臣
のうはなしにくもる山のみねのかく
わかくさのの花咲くや梅の花
慈照院入道前太政大臣
山のはのこるきえかねしらゆき
松のはたしのうちのむしさ
春誘寿家
山のはもあけはなれ月のかすみて
やまふきのきえ残る一木
法眼玄順
かすみやそらのまたしめのうち

人しれぬ
よそ人も
水のおもにうつる人の橋
砂川のなかる山はなかる
三条親王
君かため涼しく浦の秋
冬されのさむきよはに
権大僧正
梅かえのさしのめの一池
めしさへの天のかけ
青柏法師
いつはりのなきかはとやすく

みよし一もとの松くらべ見ゆる

御製

かゝるやは浪もて岩をゆく
うきたるくものゆくさきは流れて

尭恕親王

ゆふ霧にしづむ人のとまりとも
みゆるはくもの白雲のかゝり哉

宗長法師

いつまでと空ふかゝさるうちに流
らいさ夢のうきさそふ人ぞなき

法印玄清

雲間より立ち出づる夜の月影の

かすみ立のぼりの中に松のすゑ
柳とは風の吹きもすゝしく

権大納言資慶

くれなゐの色とちるゝ鶯
夏のすゑしらぬ水の

大僧正慈運

之月毎いさよふ山の流れより
あらぬ方とぞ山松風に

藤原正純

かしすゑいはねのみかげ人
森ちるをとく風はるかに

菅原政行朝臣

くものゐる沖とも秋の浪に見えて
かくてすまゐをせしつゐるなれ

関白右大臣

もしほ人いつをうへきかほには
文明十四年六月源氏物語詞よせしに
しほたれて わかれまても年は
はり舟のとまりさしてすまのうら

御製

なかしりうちあまのしほくさ
関守もまてしはしなはなれゆく

権大納言実隆

ゆくへのそらはつつらのみ

すまのうらゆきかひの一つ

権大僧都紀以毅

舟人もふくとまをすまの秋の海
浪のうへの風やのこるらん

後成恩寺関白太政大臣

いかに人のとふともあはれならし
忍ふともきかれしまくらはなき

法印者海

なにはえのいかりおろしてよるのそて
こすゑにかかるしほ人のなみよると

法橋兼載

なみよるのさかひのいかり火

ちらぬまてハいつの　かな

権大僧都心敬

よふかくのつゆのかゝるも涙かなへ
きつゝなれしとこさすまの

智蘊法師

天人のたもときしハあまりゆく
松とさしより小ゝのかし舟
松かさやあをくもかゝると鈴く
花より玉のくさよりかすむ

多々良政弘朝臣

日ふくれはのしハしと民の宿
よし河の風ハすさましきかな

堯孝法師

ともやすらふみねのふもとのこの人
慈照院入道准后太政大臣家にて百
韻の連歌よみ侍る人々に
まよふ人のめし

宗祇法師

松のゝ白雲つゝみちらしみえて
神さひぬくもりし月の

宗砌法師

いかなる人の家のむかしみゆるとも
しりとはなくさハくる松風そ

法橋兼載

旅の空しらしらのかの文
きらしらくれ[illegible]
源尚純
石山の[illegible]山かすむらや
文明十六年三月家の一村の
[illegible]本
[illegible]
慈照院入道前太政大臣
又[illegible]月の[illegible]
天[illegible]
純阿法師
[illegible]の[illegible]
志の梅[illegible]

宗祇法師
これ[illegible]人の[illegible]
[illegible]山や[illegible]
権大納言宣胤
[illegible]の[illegible]
かす[illegible]山
三品親王
里ときこえ[illegible]
しれ小[illegible]袖[illegible]
妙法寺前関白太政大臣
[illegible]の[illegible]
[illegible]雪や[illegible]

宗祇法師

ゆふしも[illegible]峰の[illegible]

[illegible]人

源意法師

秋と[illegible]

[illegible]

藤原[illegible]

[illegible]人と松[illegible]や

[illegible]

法橋兼載

[illegible]松の[illegible]

文明十八年十二月廿五日[illegible]

のりしとふとさく[illegible] 百韻

[illegible]

[illegible] 按察使俊量

[illegible]

[illegible]

妙花寺前右府

山の[illegible]

[illegible]風の[illegible]

権大僧都心敬

[illegible]人と[illegible]

[illegible]

宗長法師

られかたき木末に立る月のかけ
しらるゝ道はいかならん
宗祇法師

なれしも花よりも池の水の色
世中のあはれを見てそかへる
宗砌法師

東へし雲の行衛の山
めくりきてやすらふ人もなし
権大僧都心敬

山ふかくなる木かくれに
おりへし山こそ世をいとふ
大僧都弘慧

からはかとならんかたらひしかや
めくりもあふかはかもはかり
桑淵時房

陰ふかき人まちしゆふへやまの松
よしも花の色の香
宗□泰隠

春くるゝ山の奥に世をすて
かなしや一すちの寺
権中納言宣親

すゝしも見やまふかき杖の山
こけむす苔にしける風かな
宗砌法師